



做  
諧  
文  
庫

三  
九

32  
市  
の  
花

^ 5  
1139  
32





玄雅云とまじらぬあまきあまをたを  
さうくあまをみまのこことあま集  
つらまそ世年術ふる日まよふ何は情多  
心まよふあま此をまよみまよふ大隠  
朝市ふかろまよまよまよまよまよ  
まよまよまよまよまよまよまよまよ  
あままよまよまよ

あままよまよまよ 月

氷壺 識

群衆の川よまよまよや稲まよ 龜得  
月まよまよまよまよ霧乃中 潮月  
月身前段引まよまよ人まよまよ 氷壺  
葎天井能候まよまよまよまよ 得  
あままよまよまよまよまよまよまよ 月  
つらまよまよまよまよまよまよまよ 壺



醉狂より多手て背巾打く  
此突天ぬまの糸を結るなり  
一艘の縁を暫時よ羨し  
火の吼るも承ハ尾をふふ  
家名より恒長と申のまきり  
夜起くも阿ちきぬ旅  
掌のこや焚く全種は出来し月  
のち勢も信やなりし月本屏

月 得 壺 月 得 壺 月 得 壺 月 得 壺

おちり場も古くは名も  
手引も昔をよける末 搦  
このちこい書いりかきのか  
作棚の傍のいつりも利久  
飛ぶものもたけりし月  
阿ちのき変る箱あり 菜

月 得 壺 月 得 壺 月 得 壺

近より江の口や小暮の山より錦  
水壺  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
龜釋  
家根着の舟あるを江の口を底より  
湖月  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
壺  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
壺  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
壺  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
壺

旅訓と晴子の書も春の中先は  
龜水  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
斜釋  
結核を土佐路の屏風遠より  
壺  
山麓を舟の難るる舟は遊ふところの本  
釋  
遠より舟の難るる舟は遊ふところの本  
斜  
村本あり舟の難るる舟は遊ふところの本  
水  
舟の難るる舟は遊ふところの本  
釋  
葵葉を舟の難るる舟は遊ふところの本  
壺

馬 會 結 通 一 取 是 結 面 白 々  
く 結 亦 是 結 一 取 一 中 一 僅 一 僅  
我 者 亦 結 一 取 一 中 一 僅 一 僅  
一 取 一 中 一 僅 一 僅 一 僅 一 僅  
稱 壺 斜 水

乾坤

中 亦 一 取 一 中 一 僅 一 僅 一 僅 一 僅  
月 之 出 結 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋  
降 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋  
志 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋  
所 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋  
繼 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋 一 筋  
由 之

さやうと結見と過在秋の月 遠淵  
 初冬や空の道はゆる 秋は内 不深  
 見の欲は走つてをさなきを以て 菅陽  
 春空を蘇干はつたはるおと 荷少  
 遠山の根は名なき降る河は道は 拙珠  
 雪の田や居あつた日の雪のふ 波踏  
 秋をのり結見をや一をの時ふは 香吟  
 十六秋乃雪や後の田一枚 卓郎

名月や何もそよのぬいなきを半 系 梅室  
 長持や人随月の滝をのり 杜 鶴  
 雪積る春空とある秋のりれ 杜 涼  
 叢山の河のりもろなり 露の春 淡 荷  
 滝月を河を去先を見よ木の雪は 梅 通  
 元の平志つるりもろく黄昏る 子 布  
 雨さりのやと流るる 秋の平ひる 系 梅 魁  
 芒吹雪は亦ありあき乃 月 昇



夕照と暮のうけより秋の聲、  
 鷺、其山  
 名月の影をくまれ、  
 歩行ぬらん、  
 木子そよと、  
 川音も降、  
 霧去や、  
 のをくぬ、  
 智道

月、杉庭  
 山空  
 多代女  
 六塊  
 舎用  
 百古  
 五律  
 雨  
 龜

魚を舟に載せりて舟に坐りて  
 山の方  
 初雪の志を以て雪に手招き  
 山の方  
 流るる水は志の如く氷の如く  
 一巻  
 雪は赤くしては廣野や白く月  
 抱儀  
 竹は冬を以て少き木の如く  
 抱儀  
 初霜やまの如く雪は冬  
 初儀  
 木植は冬を以て少く初に  
 葉古

只身を以て少くはるるを以て  
 初儀  
 傘を以て少くはるるを以て  
 山子  
 鶏ももや樹ももつさうり  
 初儀  
 野の果ももはるるを以て  
 麦香  
 雪とて空を以て少くはるる  
 樞文  
 山を以て少くはるるを以て  
 相古  
 凍るる水ももはるるを以て  
 可籥  
 初くももはるるを以て  
 見外



お水くく物新きき一冬乃月下廿十條  
山をくく雪はくくくや々新の林、申く  
ちやのきむきほしきくく山くく  
塔もくく鐘もきくくく夕のくくヒラテ晴河  
新會や樹名もきくく松は月テハ法風  
床くくもきくく月子向かきくキ江杜水  
目きくくお筆志矢直はくくイコ菅居  
名月や雪のくくく木もほくく氷蓋

植物

庭内や山坂らくく菜乃木 米成子  
葉陽花やまきのきくく名くく先 稻志子  
苗代お志きくく岸折帆くく巨月子  
二日降向はほくく苗代田 共成子  
遠近けくきくくおまきくく苗代田 菜葉子  
朝夕は露意きくく枯尾木ヲハリ一信  
松風お風元吹中 木 日 和 庭出



何屋も空のへく方より落楳 杉水  
 さむしきも露のそとに 我本末  
 多つては晴と旅はる空と先とれ 墨苔  
 所をゆくかゝ思ふきこゝれ望み 蒼山  
 枇杷晴や人さしこゝれハるゝ峰。 念々  
 さしこゝるの遊けしこゝれ藪の梅 彼光  
 見こよりの根と涼しうゝ梅と葉は 土持  
 藤ささや浮世のさゆをささしこゝ 杉露

初也や風よりさゆと露のそとに △サレ 茶喫

池ありき場を見立ちや梅結花、 一巻  
 通ふ灯よ月のく白し門の梅、 不二丸  
 咲く人のさし梅は回しつゝの梅、 花菱  
 ちりくくと人散るゆきささしこゝる中、 二柏  
 いと筋も花よさしつゝ望み中、のれ、 名草也  
 梅もささきよ、いづれかおりのさし 山外  
 種み出る白し日を経し屋をさ 侯富

一山千松夕のありけりしう南 奥 一止

葉ささくや人よ訓くく納め鶴、 湖立

照降は嫌ひなき地や苗代田、 葉史

野ハ枯ぬ何を小菘は言りくを、 江三

雪うりハ泣くもき霧や梅のを、 卓半

白氷を倉も洞も木槿、<sup>秋</sup>の菊 梅泉

遠 近は白やむ待 花もわりのく <sup>下サ</sup> 露 佳

をく一層の森ぬくりんくりけりの雪 古 山

下結くけりて見出す 烟や烟めを 帰 屋

つやしくと枯る葉露を屋むう丸 大 鵬

うのりよハ咲やうをなす 冬ハ梅 一 賢

柔葉も地を住みよし 名落のを 僻 月

苗代より二階は涼めくつりきり 木 鳩

沼ハ田よもあしあしありのくも甚しのれ 嘉 穀

見るよまハ日結く物ケもあるお葉や 一 珠

猶見く鳥色ハ日長く 葉のを 西 馬

明よるまよきと道くうり唯めく先 氷壺

生歌

けしきしきし藤の奥より闇の若 閑雅

枝め方しとくくかぬ意しうれ 箕山

人の舞をしつれをふり枯れむ 龜石

藪し日の仄よきせとふくひを 清藤

若の春山の海沙とくうり帯を 藤雅

懐ゆるま世を祝く舌のよきき 藤久

字さひそ只塚本もは新しう那 下サ 実平

低く来々養場舞や月の唇、 玉傳

近くある聲の表よのふるや、 春生

夢や初よりあともき聲のたま、 春華

別はよまうて地をまむ小春うれ イッ 新退

起すうらうとくし カヒ 為春

震所ハ株敷多き故き 井カミ の柳 立宇



一夢の如く立ちし陽壽や初鳥 系 有常

いと静りし秋の志つよりや子規 イナシ 保内

足若ししそり居直る蛙の如く 保海

夢や余交ていし道と垣つき イヨ 菊園め

夢よき日結のけをよや晴るひを 奥 梅月

けし居る今志るやうのの若れ 春 巖

大空をれい思き襟巻のそるうれ 羽人

蒼涼や秋の夢の明きと秋 惟学

白よりいひの居居生を若の夢 幻舟

甘きよしは道に氣のよきうへ 十二八 素屋

空よりゆく木立の奥や推子の聲 寛意

晴晴や池の岸のうらさき イヨ 香沙

福ありし初瀬のうらや木立の音 尋志

野の隅の隅のそり居る イナシ 静永

初桂多しと持てぬ田舎の如く 斜将

きりぬ水よ若のちき イヨ 龜将

初影をくけしきめくろくろくれ 多知也

の光やいつきあらし無家並 ハサシ 康年

貴くも雞のおとろくもけくろく イッ 甫山

いふ共以てくしつるや軒 敵 庭守

いふ若め七とさそ平 ハサシ 月桂

握の葉子かたはら 奥 如雲

是れ梅やふり 京 岱年

幸ひや惠方子向 アハ 厚徳

梅の内を風も通 葉雷

蒼葉始 秋夕 素山

鯨の骨 土浦 翠二

藪尻 静湖

其端より 龜得

初雪や 立

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink and is arranged in several lines across the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Small handwritten mark or signature at the bottom right of the page.



Small handwritten mark or signature at the bottom left of the page.

Small handwritten mark or signature at the bottom right of the page, near the center fold.

